

2. 実施ブロックの報告

北海道ブロック

1.プログラム詳細

10月21日(火)

時間	分	内容
09:30～10:00	30	受付
10:00～10:10	10	開講式 主催者挨拶(内閣府) 来賓挨拶(北海道)
10:10～11:10	60	講演①「高齢者の交通事故防止」 村山 敏夫 (国立大学法人新潟大学人文社会科学系工学部工学科 人間支援感性科学プログラム教育学部保健体育専修)
11:10～11:20	10	休憩
11:20～12:20	60	講演②「自転車の安全利用」 彦坂 誠 (一般財団法人 日本交通安全教育普及協会 普及事業部長)
12:20～13:20	60	昼休憩
13:20～14:40	80	活動事例発表、活動事例発表を元にした意見交換会
14:40～14:50	10	講評:コーディネーター 村山 敏夫 (国立大学法人新潟大学人文社会科学系工学部工学科 人間支援感性科学プログラム教育学部保健体育専修)
14:50～15:00	10	閉講式 主催者からの連絡事項 事務連絡
15:00		終了

2. 講義等の記録

■ 講演①

国立大学法人新潟大学人文社会科学系工学部工学科

人間支援感性科学プログラム教育学部保健体育専修

村山敏夫

「高齢者の交通事故防止」

【学生と取り組む交通安全活動】

1. 取組の概要

新潟大学の学生や新潟県警、地域の健康教室の指導員と協力し、地域住民とともに交通安全活動を展開している。活動は新潟県内にとどまらず、北海道から九州まで全国のボランティアと連携し、互いの活動の雰囲気を変え合いながら「仲間」として活動の輪を広げている。

2. 活動の背景と課題

・高齢者の交通事故の増加

他の年代の交通事故は減少傾向にある一方で、高齢者の事故は減少していない。特に横断歩道を渡りきる直前に事故に遭うケースが多く、加齢による運動機能の低下が一因とされている。信号機の時間設定(1秒 1m)に対し、体力の低下した高齢者は歩行速度が追いつかない現状がある。特に夕方や夜間、ねずみ色の服は黒い服よりも周囲に溶け込んで見落とされやすく、渡りきる直前の事故を誘発している。

・運動不足による影響

運動習慣の有無が高齢者の運動能力に大きな差を生み出しており、それが交通事故のリスクに直結している。新潟県特有の課題として、夕方のライト点灯の遅さや、信号のない横断歩道での停止率の低さ(マナーの課題)が背景にある。これらを改善するため、住民一人ひとりの「交通安全に対する意識のステージ」を向上させることが急務となっている。

3. 具体的な取り組み内容

・健康教室と交通安全教室の統合

健康教室の中で運動機能の測定や改善を行いながら、同時に交通安全に関する知識を提供している。人が行動を変えるには「気づき」が必要であり、寸劇や体操を「手がかり」として活用し、それらを心に刻むことで、実際の道路場面における注意力を高めている。

・運動プログラムの実施(CS30)

週に1、2回の軽い運動を取り入れた健康教室を実施。30秒間の立ち座り運動(CS30)において、「1秒間に1回(計30回)」が理想的な目安とし、9回以下は低体力者として注意を促す。単に筋肉を太くするだけでなく、「脳が筋肉を動かせる状態」を作ることを目的としている。

・データに基づく指導

身体運動だけでなく、視線移動の訓練やスループテスト(文字の色を答えるテスト)を行い、運動や歩行に

不可欠な脳の機能(注意力の分配・選択・転換)についても科学的な指導を行っている。

4. 成果と効果

・運動機能の向上

運動教室に参加した高齢者の多くは、立ち座り運動の回数が大幅に増加するなど、着実な運動能力が向上した。これにより、歩行速度の改善や交通事故リスクの低減が期待される。

・参加者の意識変化と主体的活動

自身の運動能力の向上を実感した参加者が、学んだ知識を周囲へ広げる「伝道者」としての役割を果たすようになり、活動の広がりを見せている。

・地域の連携強化

学生、県警、企業、地域住民が一体となって取り組むことで、組織の垣根を越えた協力体制が構築され、地域に根差した持続可能な活動となっている。

5. 課題と工夫

・情報発信の重要性と持続性の確保

活動がニュースや新聞のメディアに取り上げられることで、参加者のモチベーション向上に直結する。社会的な評価を得ることで、活動が一時的なものではなく、持続可能な取り組みとして地域へ定着する。

【高齢者の事故防止】

1. 高齢者の視線の特徴とリスク

高齢者は足元(近く)を見て歩く傾向が強く、周囲の状況を広範に把握しにくい。若者が遠くからの情報を得るのに対し、高齢者は近く情報の入手が遅れがちになるため、結果として判断の遅れを招き、事故のリスクを高めている。

2. 視線の影響による具体的な事故事例

新潟県内(新発田市など)では、踏切を渡った直後に誤って線路内へ侵入する事故が発生している。これは単発の不注意ではなく、同じような状況で別の地域でも連鎖的に起きている課題である。視界が下がることで、渡った先にある「左折」などの進路情報を正確に捉えられていないことが一因と考えられる。

3. 視線特性に基づいた対策と習慣化

・環境整備

高齢者の視線特性に合わせて、注意喚起の看板を適切な位置(視界に入りやすい高さや場所)に設置する。

・防御性収縮への対応

不測の事態に驚いて筋肉が硬直(防御性収縮)し、アクセルを離せなくなる特性を理解し、これらを防ぐために、運転前の「指差し確認」や「窓を開けての音確認」といったルーティン(決まった手順)を確立し、意識的な安全確認と運転習慣で補完する。

・海馬と運動の関連性

有酸素運動による持久力の向上が、記憶や認知を司る「海馬」の活性化に繋がり、身体機能の維持が認知機能の維持、ひいては交通事故の抑止に貢献することを広く啓発していく。

●まとめ

1. 事故防止の対策

高齢者の視線の特徴を考慮し、注意喚起の看板を適切な位置に設置することで事故防止をする。また、高齢者に対して安全な視線の使い方や周囲の確認方法を指導する交通安全教室を実施する。

2. 運動機能向上の取り組み

健康教室と交通安全教室を組み合わせたプログラムを実施する。加齢による機能低下を防ぎ、運動機能の維持・向上をさせることが、交通事故の防止に繋がることを啓発する。

3. 地域連携の強化

大学、県警、地域住民が連携し、交通安全対策を推進する。学生やボランティアが主体となり、地域住民と協力して活動に取り組むことで、地域全体の意識向上を図る。

■講演②

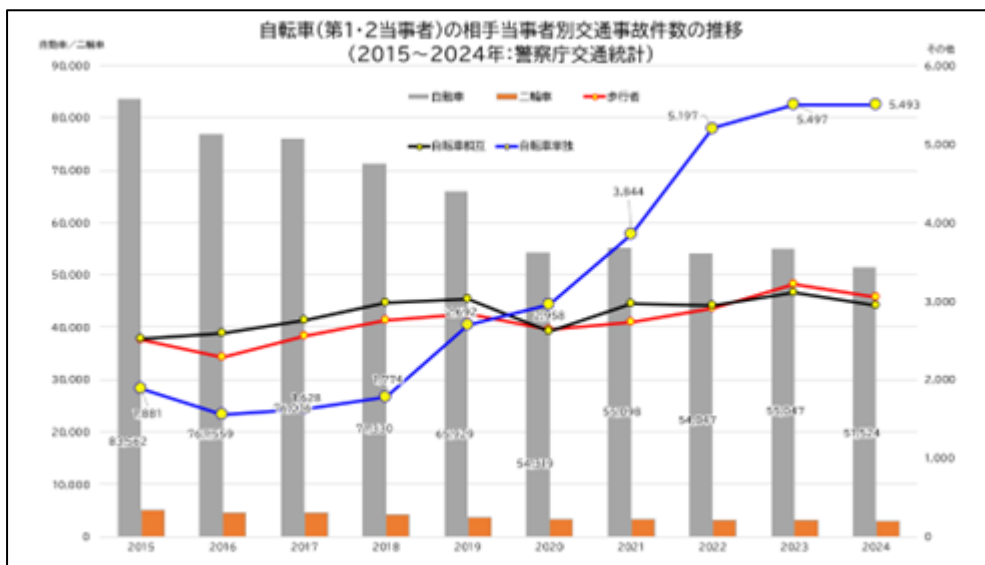
一般財団法人日本交通安全教育普及協会 普及事業部長

彦坂 誠

「自転車の安全利用について」

1. 交通事故件数と自転車関連事故件数(構成率)の推移

- ・10年間の推移を見ると交通事故総件数は大きく減少している
- ・しかし自転車関連事故は横ばい傾向にあり、構成率は年々上昇している
- ・相手当事者別で見ると、対自動車事故といった「被害事故」は減少傾向にあるが、対歩行者事故といった加害事故が微増ではあるが増加傾向にある
- ・単独事故がどうかしており、そのほとんどが高齢者による事故となっている



2. 自転車の交通ルール改正の流れ

- ・昭和40年代の高度経済成長期における自転車事故を受け自転車の歩道通行を推進
- ・車両意識の希薄化を改善すべく、最初の「自転車安全利用五則」
- ・その後、普通自転車専用通行帯の設置等の自転車走行環境整備や道交法一部改正を経て「自転車安全利用五則」が改定され、自転車のヘルメット着用が努力義務化
- ・さらに「ながらスマホの禁止」「酒気帯び運転の禁止」などを経て、令和8年4月1日より交通反則通告制度が導入される



3. 交通反則通告制度について

- ・一定の道路交通法違反について、反則金を納付することで公訴が提起されない制度
- ・16歳以上の自転車運転者の悪質・危険な違反(113種類)が対象
- ・酒酔い・酒気帯び運転、妨害運転、携帯電話使用等(交通の危険)など、違反により交通事故を発生させた場合は青切符の対象外(赤切符:刑事処分)
- ・反則金は告知を受けた翌日から起算して7日以内に納付する必要がある、納付に応じなかった場合は刑事事件として扱われ、状況によっては拘禁刑や罰金などの刑事罰(前科)を受ける可能性がある

交通反則通告制度(いわゆる青切符)の導入	
自転車運転者(16歳以上)の悪質・危険な違反が対象。告知を受けた翌日から起算して7日以内に納付する必要がある。納付しなかった場合は刑事事件として扱われ、状況によっては刑事罰(前科)の対象になる。	
2026年4月1日～ 対象:16歳以上	
主な反則行為	反則金額
○携帯電話使用等(保持):いわゆる「ながらスマホ」	12,000円
○遮断踏切立入り	7,000円
○信号無視	6,000円(点滅信号5,000円)
○通行区分違反:車道の逆走(右側通行)、通行禁止歩道の通行 ○交差点安全進行義務違反:交差点進入時に他車/歩行者に配慮せず進行 ○横断歩行者等妨害等/安全運転義務違反	6,000円
○通行禁止違反:自転車の通行が禁止されている道路を通行 ○優先道路通行車妨害等:優先道路を通行する車両を妨害 ○指定場所一時不停止等:一時停止標識や標示のある場所での一時不停止 ○無灯火 ○自転車制動装置不良:前後輪ともにブレーキを装備していないなど ○公安委員会遵守事項違反:イヤホン使用運転・傘さし運転など	5,000円
○歩道徐行等義務違反:歩道で徐行しない ○並進禁止違反:横並びで走行する ○交差点右左折方法違反:信号交差点で二段階右折しないなど ○軽車両乗車積載制限違反:二人乗りなど ○警音器使用制限違反:むやみにベルを鳴らす	3,000円

4. 交通安全を「自分事」化

- ・なぜ交通ルールは守られないのか
- ・交通事故の経験等がないと、なかなか自分事として捉えることは難しい。そのため、関心がない・自分とは関係ないなどとして、交通ルールをしっかりと理解していない
- ・自分事化することで、交通ルール遵守を「大切である」と感じてもらう

5. 自転車の効果的な広報啓発手法(警察庁「自転車の安全利用促進に向けた効果的な広報啓発手法に関する調査事業」報告書より)

【広報啓発ターゲットごとの特徴と方向性】

- ・自転車事故の危険性認識度が高いほど、安全利用・安全運転の関心度が高く、理解したいという意欲も高い
- ・10-20歳代は他の年齢層よりも比較的交通ルールを知っているが、守らない傾向。ルールを知らない層は危険を認識していない傾向。遵法精神が希薄傾向(見つからない、大丈夫等)
- ・30-40歳代は危険性・安全への意識やルールの認知・遵守等が低い傾向。知っているルールの数値が低く、知らないルール・ほとんど守っていない数値が高い。

- ・50歳以上はルール認知・遵法意識ともに高い傾向。交通ルールをわかっているにもかかわらず違反してしまう理由は「車道走行はむしろ危険に感じるから」「家の近所等、近距離しか運転しないから」
- ・65歳以上は「自転車の運転や運動能力に自信があるから」とする傾向

【広報啓発の媒体・手法】

- ・10-20歳代▶YouTube、X、Instagram等のSNS、動画・アニメーションによる広報啓発にも一定の効果が期待できる
- ・30-40歳代▶SNSのほかテレビ放送、交通広告、デジタルサイネージ等。クイズ・アニメーションの活用も期待できる
- ・50歳以上▶テレビ放送、紙媒体、街頭指導、放送、取締りといった従来型の媒体・手法を志向

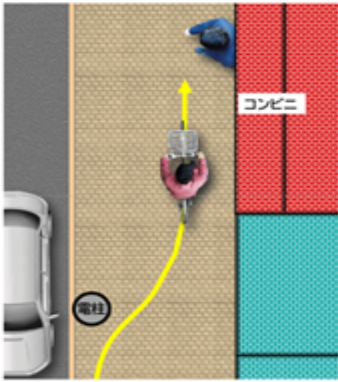
【意識変化を促す要因】

- ・タイトルの重要性:メッセージや文言の他、文字色・サイズなどが、意識変化を促す要因として重要
- ・違法性の認識:違法性(道交法違反)を明確に示す。若年層には、刑事・民事上の責任の重さを訴求する方が効果的
- ・刑事・民事上の責任の認識:若年層には、拘禁刑・罰金・損害賠償を訴求した方が効果的
- ・事例やデータによる信憑性の訴求:事件事例を使った説明や事故の発生状況・件数を示すことで、信憑性・訴求力を高められるとする意見が多い

6. 交通ルール講習における留意点など

- ・単に交通ルールを伝えるのではなく、なぜそのルールがあるのか、なぜ交通ルールを遵守しなければならないのかといった、「なぜ」を伝えることが大切
- 例)なぜ、歩道は車道寄りを通行しなければならないのか
- ・可能な限り、地域の写真等を用いて矢印等で通行場所等を明示し、具体的に交通ルールを示すとわかりやすい
- ・歩道通行にはリスクがあること、より慎重な運転を促すには事件事例が有効

【コンビニ店舗から出てきた歩行者と歩道上で衝突】 (名古屋地裁平成27年11月25日判決)

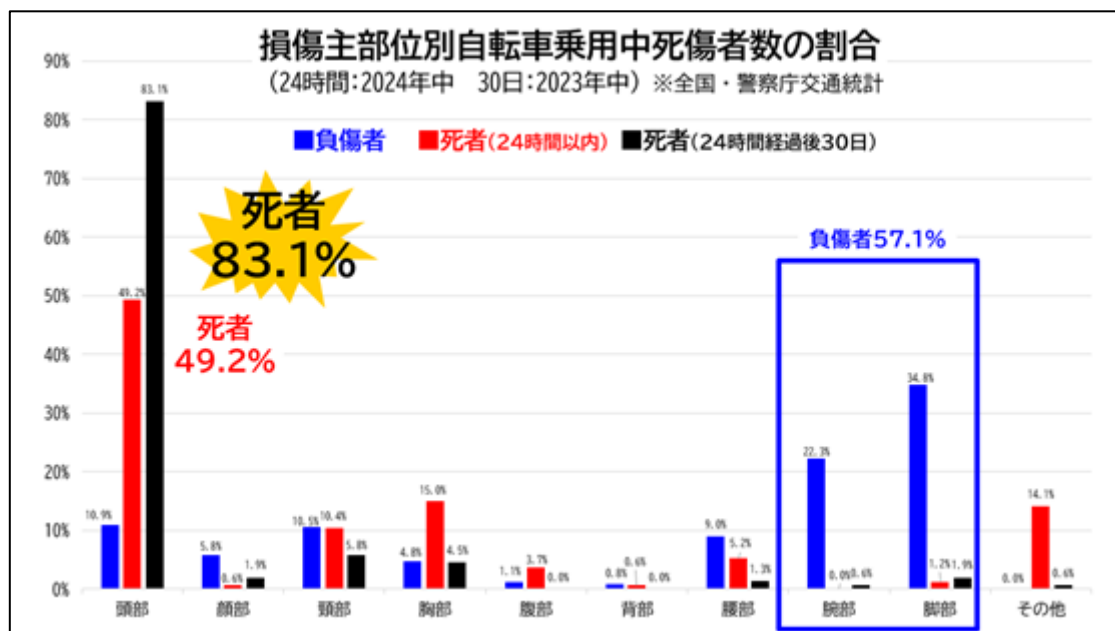


■ 事故状況や裁判所の判断

1. 自転車は「徐行していなかった」とはいえない
2. 電柱があったため建物寄りを進行。車道寄りに戻らなかった
→ 車道寄りを通行していれば事故は生じなかった
→ 人の出入りが予想されるコンビニ前であった
3. 進路上に歩行者がいるにもかかわらず一時停止しなかった
4. 歩行者側も安全確認すれば自転車を容易に発見でき、安全確認を怠った過失がある
5. しかし、歩行者は歩道上で自転車に注意を払う義務はない

過失割合: 歩行者 0% × 自転車 100%

- ・道路標識を確認する癖をつける必要がある。なるべく早い段階(幼い時)から道路標識に慣れ親しむ必要がある
- ・現状、ヘルメットの着用は罰則のない努力義務であるが、「着用する努力をすること」が義務付けられている
- ・自転車乗用中死傷者の損傷主部位を比べると、24時間死者では約半数が頭部に致命傷を負って亡くなっているが、30日でみると8割以上と高い数値になっている。さらに、負傷者では約1割が頭部にケガを負っているが、その中には重い後遺障害を負って「仕事が続けられない」「将来の夢をあきらめなければならない」人も含まれている
- ・ヘルメットの安全性能についても知識を持ってほしい。特に海外の安全認証は「自主適合宣言」が可能なことから、本来の安全基準を満たさない製品も流通している



- ・可能であれば実際のヘルメットを展示、試着できる状況にして手に取ってもらうことが重要。また、駐輪場での保管方法に苦慮している人が多いので、ヘルメットバッグ等も含めて展示すると良い



・刑事罰によって資格を与えられないことがある職業にも触れるとよい

刑事罰によって影響のある職業

1. 「**罰金以上の刑**」によって免許を与えられないことがある
医師・看護師・救急救命士・栄養士・調理師 など
2. 「**拘禁刑以上の刑**」によって免許を与えられない
教育職員・公務員・介護福祉士・宅地建物取引業 など
3. 「**拘禁刑以上の刑**」によって免許を与えられないことがある
建築士・酒類販売業 など

・事故を起こした際の救護措置や危険防止措置は当然だが、警察への報告義務を怠ってはいけない

■活動事例発表

札幌市清田区交通安全運動推進委員会 指導員

杉浦 あずみ

それでは、皆さんこんにちは。私は交通安全指導員をしております杉浦と申します。まだこの仕事に携わって丸 2 年経ったくらいはまだまだ新米なので、先輩方の前でこうやって発表するのがとてもとてもドキドキしますが、私の方から発表させていただきます。

どうぞよろしくお願ひします。では早速ですが、私が所属しております札幌市清田区交通安全運動推進委員会の活動内容を報告していきたいと思ひます。まずは清田区、知っている方もいらっしゃると思うのですが、簡単に紹介したいと思ひます。清田区は札幌市の南東の方にありまして、市内中心部から走っていくとプレミストドームの名前が変わりました。プレミストドームから三井アウトレットパーク、この間ぐらいにある区と思ひただけるといいかなと思ひます。ご覧の通り、ほとんど緑が多いですが、やっぱり北の方に行きますと、幹線道路が多くて交通量が多い地域もございます。有名なものは平岡公園の梅まつりということで、梅ソフトが大変毎年人気ですね、いつも行列を作っています。

ということで、ここからは早速本題に入りまして、令和 7 年度、札幌市の交通安全運動の重点項目についてお話を進めてまいります。

項目は、高齢者の交通事故防止と自転車等安全利用の推進となっています。通年運動として、6 つの重点のもと交通安全運動が行われています。その他に交通安全教育、そして地域活動支援、そして違法迷惑駐車防止対策というものを進めていっています。

今日はこの中から主に私が携わっている交通安全教育についてご紹介をさせていただきます。清田区では、区内すべての小学校、そして希望のあった認定こども園や幼稚園、保育園また高齢者クラブに足を運ばせていただきまして、交通安全教育を進めています。令和 6 年度は合計で 127 回、延べ 9636 人に参加していただきました。子供たちへの交通安全教室ということで、小学校は新年度が始まる 4 月、5 月、そして幼稚園、保育園等は年に 2 回、6 月、7 月、主に夏場ですね、交通安全教育と冬ということで、11 月、12 月に開催をしています。

子供たちに必ず話すことが、この道路を渡るときの 4 つのお約束です。具体的には、道路を渡るときには飛び出しをしないためにも必ず止まるということ、そして右、左、右をよく見るということ。そして、見えないところから車が来ているかもしれない、みんなの耳を使って音をしっかりと聞いてねというふうに伝えていきます。そして、車が来ていたら通り過ぎるまで待つこと。この 4 つの約束を必ずお話ししています。そしてですね、昨年度からはハンドサインとアイコンタクトの重要性を指導に入れています。こちらのアイコンタクト、私も子供たちの前でアイコンタクトわかる？という、大体朝お父さんが目に入れていたやつと一緒に言われます。大体言われます。でもこのアイコンタクトは道路を渡る時のアイコンタクトでねということでお話をしています。信号機が青であっても車が来ることがあるかもしれない。このかもしれないということを具体的な場面で提示して、自分の命は自分でしっかりと守ること。そして運転手さんとコミュニケーションをしっかりとってね。あの運転手さん、僕のこと、私のこと気づいているかな？携帯の方見ている？危ないな。じゃあ待とうかな、今度こっち見てくれたじゃ、渡るよっていうふうにコミュニケーションをとって渡ってねっていうふうに伝えていきます。

あとは、小学生は新 1 年生から 6 年生までと年齢の幅がありますので、発達段階に合わせた教材作りを意識しています。6 年生の方では、事故にあった場合だけではなくて、自分が事故を起こしてしまった場合、つまり加害者側の方に立った場合ですね、どのような責任を取らなくてはならないのか。責任と賠償というお

話も自分ごととして考える場を設けています。そして引き続きまして、高齢者への交通安全教室です。昨年度は9月10月に行われました。令和6年の札幌市の交通事故の死者数は18人でした。そのうち65歳以上が13人ということで、全体の7割以上が高齢者ということでした。

事故の状況としては、歩行中がやはり多くなっています。歩行者側の要因としては、交通ルールの無視、また斜め横断や直後横断などが挙げられます。そこで教室では歩行者側に違反のある映像を見て考えていただく。そして交通事故を自分ごととして考えていただく、そういう場を作るように心がけています。

また、生きていれば誰にでも起こる身体能力や認知機能の低下というものもちよっと認識していただいて、無理のない行動というものを呼びかけています。また、高齢歩行者の事故は夕方から夜間に多発しているという現状を踏まえて、明るい服装と夜行用の反射材着用というものを呼びかけています。

こちらは実際にお渡ししているものです。教室中に実際に手に取ってもらって、そのまま大事にしまわないでくださいねって身につけて鞆にしまわないでね。今日すぐ帰る時から身につけてくださいね。身に着けている方いらっしゃるととてもいいですねっていう風にどンドン声をかけて身につけていただくようにしています。

続きまして、自転車等安全利用の推進についてです。清田区では、区内の高校に伺って自転車通学に対する啓発を行うほか、ヘルメット着用の促進、交通ルールの周知を行っています。また、期別の運動として、年4回ある市民総ぐるみ運動を実施しています。

令和6年度は1559名の方に清田区内参加していただきました。そして、街頭啓発を一緒に行いました。その他にも各地区機関団体とも連携しながら、少しでも交通事故による悲劇がなくなるように啓発活動を行っています。これからも清田区の地域の皆さんと一緒に、交通事故のない安全で安心なまちづくりを目指していきたいと考えています。以上、速くなりましたが、推進委員会の活動状況についての発表を終わらせていただきます。ご清聴ありがとうございました。

土別市役所 市民部 暮らし安全課 交通安全推進員

高橋 賢江

皆様こんにちは。土別市で交通安全推進員をしております高橋賢江と申します。交通安全運動推進委員会、交通安全母の会、それから交通安全協会、交通安全運転管理者協会、安全運転管理者事業主会などの事務局を担っております。その市民部暮らし安全課というところに所属しております。

各団体の交通安全啓発、人の波旗の波や事業等の事務を担当しております。スーパーなどでの街頭啓発などの事業の方もやらせていただいております。そのほか、土別警察署管内の土別地域交通安全活動推進員協議会のメンバーとしても、旗の波などの活動の方をさせていただいております。

本日は、土別市の交通安全教室ということで、主に交通安全教育隊、通称守ってあげたいが行っております交通安全教室につきましてお話をさせていただきたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

交通安全指導員ですが、一般指導員、登下校専任指導員、そして交通安全教育隊の3つに分かれていまして、私、交通安全推進員が交通安全教育隊の隊長といたしまして、指導員の皆様のご協力をいただきながら、幼児から高齢者のほか、自治会、それから事業所などに出向いて交通安全教室の方をやらせていただいております。その他、小学校の実践型の交通安全教室では、トラック協会さんにも協力をいただいて、実践型の交通安全教室を実施しております。令和6年度における交通安全教室の実施といたしまして、このような数字となっております。全部で44回、1295人を対象として、交通安全教室でお話をさせていただきました。本日はですね、幼児の交通安全教室の導入の部分と高齢者の交通安全教室の寸劇について

お話をさせていただきたいと思います。

幼児に対する交通安全教室は、「信号の色と意味、それから歩く場所、渡り方、飛び出さない、遊ばない」の5つの項目を重点としてお話をさせていただいております。

導入では、子どもたちの興味を引きつけることが、その後の交通安全教室のお話がスムーズに行くかというふうに考えておりますので、導入の部分では必ず信号機のお話を取り入れております。パネルを使ったり、腹話術だったり、手品だったりということで、いろんな手法をやっておりますが、今日はパネルを使った「お腹を空かせた動物たち」という導入をご紹介しますというふうに思っております。

4つのキャラクターが出てきております。「ゴリラのゴー君、朝ごはん食べてこなかったんだって。リンゴがあるからリンゴを食べさせてあげよう。パクパクパク。お腹が赤くなりました。続いてタヌキのタヌ君くんも同じで、お腹がすいているのでバナナをあげることにしました。バクバクバクバク、お腹が黄色くなりました。そして、カエルのルン君はご飯を食べてきたんだけど、冷たいものが食べたいそうです。ブルーハワイをあげます。そうするとおなか青くなります。これを並べると何かあるよね？ そうだね、信号機だね。こんなふうに信号機がね、まちの中にあつたらとても楽しいね」なんて言いながらお話をし、じゃ、これから信号機の大切なお話、みんなが交通事故に遭わないための大切なお話を始めますねっていうふうに言って、信号の色と意味のお話をします。その後「もう一人お友達がいるんだよね。ペンギンのペンちゃんペンちゃんはご飯を食べてきませんでした。おにぎりを食べさせてあげます。さて、どうなるでしょう。」お腹が黒くなるとか、白くなるとかって言います。この子は縞々になります。そして、横断歩道のお話につなげていくということをやっております。こんなふうにね、信号、それから横断歩道のお話をしています。続いて高齢者の交通安全教室です。

高齢者の交通安全教室では、5分程度の腹話術、それから15分程度の寸劇の方を必ず取り入れさせていただいております。寸劇は、あんこおばあちゃんとおまわりさんの役やあんこおばあちゃんと店員さんなどということで、二人で実施をしていて、この寸劇はあんこおばあちゃんのユニフォームとなっております。

令和7年度の寸劇はコンサートバスツアーと題しまして、あんこおばあちゃんとバスガイドということで実施しております。小林幸子さんのコンサートに行きますよっていうバスツアーに参加するあんこおばあちゃんとバスガイドさんの掛け合いとなっております、交通安全教室に参加している皆さんも一緒にバスに乗っていただいて、バスのライブの会場へ行くということで、その中で最後に遅れてあんこおばあちゃんがやってきます。一人足りないねって言いながら、バスガイドさんが遠くを見ていると、向こうからあんこおばあちゃんが斜め横断して来て、信号無視をして会場までやってきます。それを直していくという形で話を進めていきますが、うちわの方も手作りをしました。そしてバスに乗っていただいて、皆さん右手をご覧くださいっていうふうにお話をします。ながらスマホしているね、危ないね、子どもいるのになって言いながらお話をし、じゃあ左をご覧ください。斜めに走っているよってあんこおばあちゃんが言うのですが、おばあちゃんもさっき斜めに走っていましたよ。斜め横断していましたよっていう話をしています。あんこおばあちゃん的には私がそんなことしてないって言いますが、斜めに横断しないでくださいって言ったのが聞こえませんでしたかっていうと、聞こえたかもしれないっていうふうに言います。

あんこおばあちゃんは「でも車が来てなかったら轢かれなから大丈夫だろう」っていうふうに言うのですが、ガイドさんは車が来てなかったなら轢かれませんよね。でも、その場面を小さな子どもが見ていたら、小さな子どもは赤信号で渡って斜め横断したおばあちゃんのことを見えていますよね。真似してしまうかもしれません。車が来ている、来ていないか関係なく、あの人は斜めに渡ったな、じゃあ僕もいくなって真似してしまうかもしれないですよって。だから危ないですよ。ルールを守ることは、自分を守ることと一緒に、子どもたちの

命も守りますよというお話をしながら進めていきます。

そして前をご覧ください。だんだん暗くなりました。ライブの時間が近づいてきましたね。あのおばあちゃん、真っ暗で危ないねって。そうですねって話をしたら、あんこおばあちゃんがこのないだね、交通安全教室に行ったよ。そしたらね、交通安全教育隊の人たちが夜光反射材の話をしていてというふうにお話して、参加者の皆さんに黒っぽい服装だったら、26メートルぐらいまで近づかないと見えなくて、白っぽい服装でも37メートルぐらいは近づかないと見えないよってことになって。

夜光反射材だったら57メートルぐらい離れていても見えるって説明をしながら、参加者一人一人に夜光反射材を配るところで配り終わったところで、ちょうどライブ会場につきまして、みんなで一緒にライブの会場へ行くそこでおしまいというふうになります。寸劇の方ですけど、年に一回更新をさせていただいて、現在リメイク版も含めて13本のシナリオができました。今年は腹話術と寸劇をしたあとは、事故の概要のお話、自転車の話、飲酒運転の話をしてきました。その後はお話だけではなくて、頭と体の体操ということで、文字と色を読むっていうのもやっています。あと、間違い探しもやっています。今年はコグニサイズという体操を取り入れて、認知症予防の体操らしいですって YOUTUBE とかにも載っているの、ご興味のある方は見ていただきたいんですけど、コグニサイズという体操をやらせていただきました。

ここまでちょっとざっとお話をさせていただきましたが、どんな教室でもお話だけじゃなく、参加者の方が少しでも頭に残って、そして参加体験ができるような交通安全教室を目指して頑張っております。でも、なかなか手法とかがですね、思いつかなくなってきました。

もしこの会場で同じように思っている方がいらっしゃったら、今度ゆっくりとまた情報交換をさせていただきたいなと思っておりますので、よろしくお祈りします。また、先ほど村山先生のお話にも劇が手がかりになればということをお話していたので、私たちの寸劇も手がかりになればいいなという風に思いました。以上が士別市の交通安全教室の事例となります。最後までお聴きいただきましてありがとうございます。

富良野市役所 交通安全推進員

増田 由加里

皆さん、こんにちは。富良野市からやってまいりました交通安全推進員の増田と申します。増田が発表を担当させていただいて、資料を作ってくれたのが同じ推進員の中村と申します。二人で活動しております。早速で申し訳ないですが、皆様にお詫びと訂正をお願いしていきたいなと思います。

次のページで、令和6年度交通事故発生状況というところで、富良野市で物損事故3061件って書いてまいりましたが、私のミスで正しくは706件。全然違って申し訳ございません。706件で前年対比-16件です。すいませんが、訂正の方よろしくお祈りいたします。申し訳ございません。

この死亡事故0ですけども、富良野市にとっては8年ぶりで、警察さんに調べてもらったら、富良野警察署管内でも70何年ぶりって言っていましたので、去年いた交通署長さんはすごく安心してほくほくで出ていってしまいましたけれども、本当に今現在も0でいっていますので、頑張って死亡事故の0を頑張っていきたいなと思います。その前にうちの課長から一つ任務を課せられて、ぜひ富良野の宣伝をしてこいということで、それで村山先生もお好きだと言ったスキー。富良野市はへそとスキーとワインの町なのでぜひ観光、そしておいしいものを食べにいらしていただければと思います。ぜひこの冬お待ちしております。

私たちの仕事としては3本柱でやっております。まず交通安全教室、そして高齢者のお宅へ訪問する。そして街頭啓発。この3つをさせていただいております。順番にお話を進めさせていただきます。

まずは交通安全教室の実績ですね。結構種別担当と、大体地域的にも人数的にも同じですけども、年々子供さんの数が減って学校も減り、老人会もなくなっていく中で、頑張っって声かけてサロンの方たちに教室を行ってもらっております。大体こんな感じで最近終わっております。

そうしまして、幼児の交通安全教室としてはできるだけ楽しく、そして一つでも記憶に残っておうちに帰って、今日何してきたよ。今日シートベルトしなきゃいけないって勉強してきたよっていうことを、おうちに帰って家族と話をしてほしいので、いろいろ人形を使ったりとかして進めています。お人形劇として次のページで出ますが、こちらエプロンシアター、こちらに関しましてはイカのおすし防犯のお話もしてきます。交通と防犯両方のバージョンを持っております。

そして冬になりましたら、なかなか DVD がないので、皆さん工夫されて困っているかと思えます。これも頭を悩ませるところですが、子供さんがすっぽり隠れてしまう雪山を再現したり、あと氷柱をちよつと引っ張ったりしてみても、意外と今の子でも氷柱で遊ぶ子がいます。そういう子呼んで、どういふ風にいつも遊んでいるのかを聞いて、引っ張ってもらったらもう雪。実は上の雪はクッションですけど、それを取りに来た子どもたちの頭の上に落としてみて、どうだった？ やっぱり柔らかいけど、お子さんたちはすごくびっくりしてくれます。これは氷の板だよってということで、とても危ないので近づかない、遊ばないということを伝えております。そして、時間たっぷりいただける保育所さんに対しては、交通安全信号カラーを用いてゲームをいろいろ取り揃えて持って行って楽しんでやっています。小学校、中学校、高校になりますと、やはりどうしても一方通行になりがちなので、ここも体験型ってということで、例えばストラックアウトはボールを投げてもらってぶち抜いてもらってして、その裏に問題が書いてあるのでこちらでクイズルールを確認し合っていきます。制動距離なんか急に飛び出したら、乾いた後面では夏はこれだけで足りるのに、じゃあですね、つるつる路面になるとカードが 8 枚ぐらいパタパタパタってつながります。それで子供さんたちも驚いて、気をつけなきゃいけないっていうのを学んでもらっております。

あと死角、内輪差、ダミー実験ダミーちゃんの自転車の乗り方、あと待ち場所などが悪いところやっって轢かれてしまうよ。巻き込まれるよ。そして飛び出すと危ないよっていうのも見てもらっております。どうしたらいいのかな、こうしたらいいよってということで、その通りやってみたら轢かれなかったねって成功例を最後にして終わっております。

高齢者の交通安全教室は、だいたい交通防犯教室セットで行いますので、警察さん、地域安全課の方も来てお話されるので、私たちの時間はほとんどありません。今年の例でいくと、反射材の効果を見てもらって、そしてめったにないんですけど、ゲームもちよつと持って行って、体操ですね、脳トレみたいな感じで遊んで帰ってきます。一番がっつききたことが、教室終わった後にじゃあまたって入った後に、さっきの斜め横断じゃないですけど、おばちゃんがバーで斜め横断して帰って行ってしまいます。その時は力が抜けてしましますが、もう逆にまだまだ頑張らなきゃと思う瞬間でもあります。そして 2 つ目の高齢者宅訪問。70 歳以上を対象にして、地域を 3 つに分けて、3 年 1 巡で行っております。富良野市の人口が 1 万 9300 人ぐらいしかいないところ、高齢者は 5600 人ぐらいいますので、大体 3 割近くが対象となっています。面会率は 73% と悪くもないけど、ちよつとあんまり良くもない。意外とまだ仕事をして元気で遊んでいるっていう方もいらっしゃるまして、こちらの方はまた 3 年したら来るので覚えておいてくださいって言うんですけど、大概皆さん 3 年後まで生きてないよって。大体返ってきます。そしてそれだけ言えるなら大丈夫。絶対覚えておいてくださいって笑顔で帰ってきます。意外と楽しいです。

最後の3つ目として、啓発活動。こちらの方は4期を初めとしまして、夏冬の飲酒運転根絶運動、そして地域の高齢者事業所の方々の協力を得て旗波作戦を試みたり、あと児童館の子どもたちが啓発に使うグッズを作ってもらったり、メッセージカードを作って私たちが街頭に出て活動をしていました。あと、富良野といえばスキーということで、外国からの観光客が長期で来るので。そうするとスキーとかスノボでそのまま道路、歩道を走ってきて、地域の方から危ないということで看板を設置したり、多国語のチラシを作って配ったりなどの啓発をしております。あと、パークゴルフ、春先になるとパークゴルフのピンの番号札のところに交通安全のちっちゃい旗をつけていますので、ぜひパークゴルフにもいらしていただければと思います。

こんな感じで1年間あっという間に終わってしまいます。皆さん一緒に交通安全、交通事故0を目指して頑張っていきたいと思いますので、一緒に頑張りましょう。よろしくお願いします。本日はご清聴ありがとうございました。

釧路地区交通安全推進協議会 交通安全推進員

吉村 牧子

皆さん初めまして。こんにちは。釧路地区の交通安全推進協議会で交通安全推進員をしています吉村と申します。本日はよろしくお願いいたします。先程の発表の杉浦さんと同じく、私も新米で今年1年目に入ったばかりなので、ちょっとドキドキしていて操作など不慣れなので、ちょっと既に最初からご迷惑をおかけして申し訳ありません。ちょっと頑張っていきたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

簡単ではありますが、活動事例を発表させていただきます。当協議会は釧路総合振興局内にありまして、道職員の方々と協力して日々啓発活動を行っています。昨年度、令和6年度に釧路管内統一オリジナルのぼりの製作を行いました。釧路管内8市町村のマスコットキャラクターをご提供いただき、釧路管内統一デザインのオリジナル飲酒運転根絶のぼりを製作し、管内の市町村や警察署に配布し、管内一丸となって飲酒運転根絶に取り組みました。こののぼりは啓発活動時に使用するほか、釧路総合振興局の庁舎内にも掲示しており、来庁者及び所属職員から非常に好評であるため、令和7年度も第2弾製作となりました。

先ほどの増田さんも地元のアピールをされておられたので、せっかくなので釧路地区の市町村の8キャラクターを紹介させていただきます。釧路市はつるまるくんとなります。釧路町は長靴とアイスホッケーが有名で発祥の地なのでがっほくんと言います。厚岸町はうみえもん、浜中町はラッコのきりたん、弟子屈町は牛山豚彦、標茶町はミルクックさん、鶴居村は鶴坊、白糠町はコイタクんとメイカちゃんの個性豊かで愛くるしいキャラクターがいます。

令和7年度第2弾の残りは、先ほどの彦坂先生のお話にもありましたが、昨年11月に自転車運転の携帯電話等に起因する交通事故増加傾向であることなどから、交通事故を抑止するために新しく罰則規定が整備され、来年4月から青切符と言われる交通反則通告制度が開始になることから、自転車の運転中ながらスマホやヘルメット着用と高齢者の交通事故率も多いことから、3種類ののぼりを製作いたしました。

テーマに沿った標語をAIにて何点か制作し、管内市町村ご担当者へアンケートを取り、要望をまとめて形にしました。ちょっと標語が見つらいですが、3種類ありまして、高齢者の標語は「身につけよう命を守る反射材」2番目のヘルメットの標語は「ヘルメット自分の未来を守るため。」3番目のスマホ関係ののぼりは「危ないよ。スマホを見ないで前を見て」という文。わかりやすく心に届きやすいものが選ばれた印象となって

います。デザインなども AI を使用することによって予算を抑えることができ、昨年度よりのぼり自体のサイズを大きくすることができました。幅が 600 ミリ、縦が 1800 ミリとなっています。

ちょうど 1 ヶ月前ですが、9 月 21 日から 30 日の間で秋の全国交通安全運動がありまして、その時から啓発活動で活用していただいております。写真にあるように、釧路市では 5 社合同出動式や浜中町では国道 44 号線の車内酪農展望台の駐車場にて旗の波啓発活動、白糠町では道の駅しらぬか恋問館での啓発活動で使用されました。実際に啓発活動でのぼりを活動して良かった点は、地域の方々から目に入りやすいや親しみやすい音とお声掛けをいただいたことです。改善点としましては、昨年よりもサイズを大きくしたので、旗の波運動で使用するにはちょっと大きすぎて持ちづらいので不向きだなというところと、あとのぼりの棒を通す輪があるのですが、その取り付け位置と両面加工の検討が必要だと感じています。その理由は風向きによって正面で文字が正しく読める時と裏目になってしまうことがあったのでということです。予算の関係上、配布箇所が 8 市町村となっているので、今後他の関係箇所にも配布して、より 1 層管内一丸となって交通事故が 1 件でも減るよう、また悲劇が減るように活動していきたいと考えています。

そして、釧路総合振興局の公式 X でも投稿して活動を盛り上げようと頑張っていますので、お時間がある時にでも、もしご興味を持っていただけましたらご覧いただけると幸いです。以上の活動報告で終わりとなります。ご清聴ありがとうございました。

■活動事例発表を元にした意見交換会

コーディネーター

国立大学法人 新潟大学 人文社会・教育科学系工学部工学科

人間支援感性科学プログラム教育学部保健体育専修

村山 敏夫

村山先生:今ほど活動事例発表をしていただいた 4 名の皆様、ありがとうございました。ではここからは参加者の皆さんの出番ということで、私はただただ当てるだけになるかと思えます。まず口火を切っていただける方、何かご発言あればと思いますが、いかがでしょうか。前回、佐賀ではお一人お一人の発表を大体 1.5 倍ぐらい皆さん喋っていて、この意見交換会が本当 15 分ぐらいしかなかったのが、ちょっと焦っていましたが、今日は皆様きちんと時間どおりで進んでいただいていますので 30 分あります。活動を発表していただいた方々からも、もうちょっとしゃべり足りないなということがあったらいかがでしょうか。

●:講演の中にも多々ヘルメット着用の件が出てきていたと思いますが、なかなかうちの振興局内でも進まなくて、何か有効な手立てとていいますか、何かいい事例がありましたらと思ひます。去年、うちの管内では高校生 5000 人にチラシ配布ということをやって、多少効果があったかなとは思ひますけど、街中を見ると一向にヘルメット着用が進んでないなということがありまして、どうやったらうまくいくのかなと。

村山先生:そうですね。先程お昼の時間帯に彦坂先生と私ちよつといろいろおしゃべりして、あのヘルメットはなかなか難しいよねと。特にまだ新潟の話ですが、大人になるとヘルメット格好悪いよねって。大人が変わらなければ子供もかぶらないじゃないかって話になりました。いかがでしょうか。その辺、今こんなことを考えているアイデア、もしくはうちはやっているみたいなのがあれば、ぜひ手を挙げていただけたらいいなと思ひます。皆さんで盛り上げていきましょう。せっかくだから、彦坂先生ちよつとコメントをお願いします。

彦坂先生:地元の高校とかでサイクリング部のある学校はどうですかね。サイクリング部の生徒さんに聞くと、ヘルメットをかぶらないなんていうことは絶対ありえないと。そんなの怖くて絶対ありませんよって断言してくれますね。そういう子たちのコメントを今度取材して広めてもいいかもしれませんね。

村山先生:はい。そうですね。やっぱりそうですね。どうですか？今の話でちよつとこうせつかくこう問題提起していただいたので、北海道の皆さんいかがですか。

●:ヘルメットに関しては、自転車購入時に業者と連携して自転車を購入した際にヘルメットを絶対に買うような仕組みにしてはどうかなってというのが、ちよつと私の周りの方では声が出ています。一応義務ではないので絶対って言うことはできないかもしれませんが、少し業者の方にも検討していただく必要があるのかなと思ひました。

村山先生:ありがとうございます。そうですね。SDGS でいうところの持続可能な仕組みをつくらうという中で、やっぱり作る皆さんの業者側の責任もあつたり、使う側の責任もあつたりして、その仕組みをつくっていくというのは非常に重要になってくるかなと思ひます。それを受けていかがですか。

●:振興局内でも駐車をチェックしているいろいろ対策はしていますが、そつちの方があまり普及していたような状況で、やっぱり親というかサイクリング部とかそういういただいた意見を参考にさせていただきたいと。

村山先生:今のこの時間の雰囲気を受け取って、おそらく何となく 2 つあるのかなと思ひて、一つは、今の今皆さんがそれぞれ取り組まれていることに満足しているとか、充足感、充実感があつているのかなと。私こうやっているんところでボランティアブロック講習会回らせていただいて、このファシリテーターもさせていた

くと、今までずっと溜まってきたことをようやくここで言えるっていう方が多くて、すごく手が上がります。今日あんまりというか、おとなしいのか、もしくはもう今のやっていることが一生懸命で、もう満足していますっていうそういう形なのか。

昨年ちょっとこうあれはどこだったかな、あれは関東甲信越ですかね。私たち交通ボランティアには2つ課題があると。一つは高齢化ボランティアのメンバーの高齢化が進んでいる。もう一つは人手不足だって。思いの丈をここで伝えてくれた。みんなそうだって言って。それぞれこの胸の中にある、頑張っているのに誰も聞いてくれない、一人で頑張っているみたいな、そういう方々がこれまでいたと思うと、こういう場面でお話ししていただくと、実は自分だけじゃなかった、みんな同じ気持ちを持っていたなんていう、そういう現象がありました。もしここであんまりそういうのがなかったとしたならば、もしかしたらお一人おひとりが今まで本当に満足して取組されているのかなと思うと、これ一つ、北海道がモデルになるのかなとも思っています。言われてみれば、今日は若い方もおられますので、北海道はボランティアに関しては高齢化が進んでないのかなみたいな。進んでいますか。良かった。見た目からすると北海道は若い人たちが頑張っているみたいな、そんな風に受け止めたのですが、そうでもない。じゃあ、どうですか？いろんな思いとか、考えていることとか、せつかくないのでここで共有していただいて、共感する場がここですので、何か手が挙がったらと思います。年齢関係なく、若手だろうがベテランだろうが全然関係ないと思いますよ。何かあれば手を挙げていただければと思います。

●:大変恐縮ですけども、遠軽町っていうのは4町合併した町です。そして今1万2000名ぐらいですけども、その町の中で各地区、遠軽町の町の中には高校がございます。各地区には小学校、中学校、もう10人ちょっとの生徒しかおりません。その中で地区の交通安全協会の人たちは、ヘルメットの件ですけどもヘルメットは支給しております。だけれどもかぶらない。小学生だけは真面目にかぶってきております。もう中学生になるとかぶってこない子もいます。そして遠軽の町の中にある遠軽高校って700人弱ぐらいの生徒がおりますけども、ほとんどかぶっておりません。0に近いです。その0に近いのはなぜかという、自動車の走行が少ないためです。南北国道を走っている街の中では、街の中の歩道が広いです。だから歩道を走ります。車道は走りません。じゃあ横断歩道は自転車に乗って渡っちゃいます。本当は降りなさいっていう警告はしています。我々交通指導員の中では降りてくださいという警告はしていますけども、だめだとは言えないですね。私たちは警察官ではないですから。一応はそういうお話をいたします。そういうお話の中で、各4町にまたがってですね、遠軽の町の中の交通指導員が共通しているんな話をできるかとなると、なかなか難しいです。

白滝は500人ぐらいの人口です。丸瀬布1000人ぐらいです。生田1300人ぐらいです。遠軽の町中は8000人ぐらいです。そうなんです、その小さなこの地区はまあまあいいかと。朝の学校の通学時間帯というのはほとんど20分ぐらいです。だから結局は一生懸命交差点だとかいろんな通学路に立っていますが、車で待っている時間の方が長くて、来てしまったらもうあと次来ないですから、時間がすぐ終わっちゃいます。それでも一応時間のある程度の時間帯を見て一般の方、それから一般の自動車の方たちの交通安全の確認はしておりますけれども、その辺の難しさがあるのかなと思っております。高齢の関係ですけども、老人ホームに行った時ですね、「自転車は怖いですよ。横断歩道のないところは斜め横断だめですよ。」と言うと「車が来ないからいいだろう」って言われます。全く来ないです。夜になるとキツネか鹿ぐらいしかいないです。そういう地区と、やっぱり大都会のとこの交通安全の仕組みとはですね、やっぱり違いますね。

その辺の隔たりっていうのが大変貴重な話の中の一部として取り入れていきたいと思っていますけども、なかなか難しい面があることを認識していただければありがたいと思います。

村山先生:はい、ありがとうございます。どうでしょうか。今のお話は遠軽だけのお話じゃないって皆さん思っ

ているのか、おんなじだっと思っていいのか。同じ気持ちですか。そうですね、同じというような気持ちで皆さんが頷いていただいて、そしたらそれをどういうふうに乗越えていくのか。そういえば今お話を聞きながら思いました。今いろんなお話の中にいくつかポイントがあったなと思ったのですが、一つは、新潟の関わっている山の中の集落と重なったのですが、確かに交通意識が低いと。ただ、なぜかわからないですけどその死亡事故は多いですって。人がいない、車は通れないって言いますが、県警の方が調べてくれたら、わりとここ事故起きて死亡事故起きていますよって。こういうところも無視はできないなっていうふうに思っています。人がいない、車が通らないってところでなぜ事故が起きるのか。

ちょっと私、地域の人達とかあるいは警察の人たちという話をしています。お話の中で一つ出てきたのは、やっぱりみんなと一緒に考えるって場面が少ないですよ。今ちょうどお話いただきました、みんなで集まる場面や、その集まるって人がそんなにいないって話になると、確かにその集落でも私はそこにいて、みんなと話そうっていうと、地域の話をしようにしているのに、集まってくるのは3、4人ですよ。3、4人でいいアイデア出して、じゃあみんなでその地域を守っていこうっていう。そういう雰囲気果たしてそこにあるのかって話になると、もしかしたらその自分たちの地域で起きている課題なのに、もしかしたら人ごとに思われているのではないかと。だとしたならば、集まってくれた3人だけじゃなくて、そこからもっと広げていく。何か仕掛けっていうのは大切なのかな。

今お話を聞きながら、何か場所は違っても、県は違っても、道は違っても、なんとなく重なる部分はあるかなと思ったりしましたね。ありがとうございます。そうやって課題を共有していただくと、私今度、青森行きますから。青森でもやっぱり同じ話をしなければいけません。九州ではとにかく手が上がりました。北海道の皆さん、いかがですか？心に秘めているものがあるのではないですか。せっかくだから、ここで出してみたらどうでしょうか。オホーツク地域の皆さん。今思っていること、課題だとか、そんなうまくいったよとか、何か思うことがあったらお話をいただければと思います。

●：今は皆さんすごく若くて、いろんな内容発表を聞かせていただきましたが、私も市の専門交通安全指導員として29年、子どもたちから高齢者まで今すごく懐かしくて、これもやったなってすごい思い出しながら聞いておりました。平成21年、市役所を定年になって地域推進員と一緒に21年の3月に自動車運転免許の講習指導員になりました。道路交通法に関わるってということが非常に違う形でみてきて、今話を聞いて、網走からわざわざ来て、何もしゃべらないで帰ったらあれだなと思っていたところです。

今取り組みとしてやっていることは、何か一人でも多くの人に伝えたいっていうのがあって、講習資料のほかにということで、地域の人にも関わっていきたいという自分の意志もありまして、飲酒運転防止インストラクターというのを1年間中心でいただいて、それを少しでも地域の人に還元したいと思ひまして、免許の講師はもちろんですけど、地域の人にも酒の話をしたいと思ひまして、最初はやっぱり覚悟必要でした。わざわざ人を集めるのではなく、集まった場所で何か皆さんに伝えていきたくていう気持ちがあって。いやでもこれって花見の前にしていいのかな？と最初は思いました。一番先に、これから1杯飲んで楽しくしますと、その時に酒の話をして嫌がられないかなってすごく思いましたが、思い切って花見の時に皆さんに交通安全のティッシュを配って話しました。1杯飲む前にごめんなさいって。お酒どんな体に影響あるか簡単な説明をして、体質によって抜けない人もいますけど、とにかく毎日飲んだら大変だ。お酒の話って本当みんな嫌じゃないですね。最初この免許講習修了証をいただいた時、高齢者の教室から呼ばれました。たまたま網走で始めていたってということで、高齢者講習所で呼ばれてお話もさせていただきましたが、嫌がる人は一人もいないですね。

ですからお花見とか、それから総会とか、人の集まる時に遠慮なくちよつとずつ話を重ねて、飲み過ぎると絶対酒が残りますっていう感じで話していくと、もう地域のお母さんたちも私がしゃべっても聞かないから、うちの旦那にしゃべってくれるかってそんな声も出てきて。医者じゃないのでダメとは言えないので、今までの量を少しでも減らしてもらいたいなっていう気持ちもあってそんなところでお酒の運転に関して危ない、また健康に関しても良くないっていう話を少しずつ広げてきています。

それともう一つ、今すぐぶつかっていることが認知症と運転免許ということで。これが大変っていうか、私も講習の時はもう講習資料の通りに説明していましたが、実際は医師に認知症と診断されて運転したらだめだよって言われた人がいかに運転しているかということですね。医者はダメだって言っても、免許証が手元にあるので。医者がダメだってすぐやめる人。それから、まだ免許証があるからそのまま運転する人。ご近所さんですけども、医者に何回も止められているのに、免許証が切れてないからずっと乗っています。病院に行って先生に車乗ってないでしょうねって言われたら、乗っていませんって嘘ついて帰ってきたって、3 回報告した人がいますよ。これはもう私の域を超えているなと思ひまして、事務局の交通課の方をお願いして、こういう人がいますということを報告してもらいました。やっぱり認知症で逆走して最初に捕まったのが始まりでした。もうひとつ、すぐご近所さんですけど、1 ヶ月くらいの間に 3 回接触しました。最初は倒れてきた木にぶつかりました。車が直ってきてまた車ないなと思ったら、今度は道路の脇に突っ込んでぶつけて。それが治らないうちに借りた代車も擦ってしまいました。でも免許証は持っています。車を買おうかなっていう言葉を耳にした時には、次どこに行けばいいかなっていう、そういうのがたまたま重なってきていて、私は直接言えない立場ですので、やはり地域に協力するのと、行政に協力していただくしかないと思っていますので、皆さんの地域にもそういう方がいらっしやると思いますが、やはり自分一人では解決できないと思っていますので、相談したり報告したりっていうのをした方が良くないかと思っています。

村山先生:ありがとうございます。良かったです。やっぱり皆さんそれぞれ本当のお言葉がありました。表現していただきました。壁にぶち当たっていると思っていることを言語化してもらうっていうのは非常に重要なことですよ。皆さんはどうですか？同じ思いなのか、はたまた今のお話が特別なのか、皆さんいかがでしょうか。

お話を聞きながら、最近本当に思いますけど、一石二鳥論で交通安全の取り組みが健康につながるとか、交通安全の取り組みがまちづくりにつながる、私はそういうふうにやっていきたいなと思っていますね。皆さんの取り組みは、もしかすると交通安全のことかもしれませんが、それが実は一人一人の健康に繋がっていたり、あるいは地域づくりに繋がっていたりと思うと、皆さんの取り組みは交通安全に尽きないということですね。もしかしたら、いろんな大きいところに繋がっていると言うふうにも思うと一石二鳥、もしくは一石三鳥四鳥になっているかもしれませんね。そんな中で、今こうやって言葉にいただいた。やっぱりそれはそうです。お酒飲んでいる場所でちよつといいですか？勇気が要りますよ、いろんな場面で家族にだってもう運転やめたら？とかいろんなことを言うのに勇気が要りますよ。それを皆さんが前に立ってやられているということ、今のお話を聞いて、やっぱり皆さん頑張っているなと思いました。何かあったら声にいただければと思います。いかがですか。はい、お願いします。

●:私はですね、三笠市交通指導委員会の会長をしまして、交通指導員としてはもう 40 年になりました。先程若い方が多いと言うことでしたけども、私今 71 歳ですので、ちよつと平均年齢を上げてしまうことになって申し訳ないのですが、今地域が抱えている問題っていうのは、先生が先程おっしゃったような人がいない、なり手がいないっていうことですね。それで、私も交通指導員をやっていますけども、私は指導員 1 筋ですが、他の仲間たちは消防団員や、いろいろ掛け持ちをして頑張っています。何とか若い方もなってもらえ

るように色々声掛けしたりしていますけども、なかなか別の会の役員やっていると、この三笠市というところは昔 6 万 5000 人ぐらい人口がありましたけど、今は 7200 まで落ち込んでですね、やはりお年寄りがもうすっかり多い町になっていて、最初に交通事故死のお話あったと思いますけども、日本で一番多い時は年間で 1 万 6700 人ぐらいいたと。

それで令和 6 年度には 2663 人になりましたっていうお話ですけども、当時ですね、私が指導員を始めた頃は交通事故死 0 が 300 日続いたら、市の中でも祝いごとのようになって、あと 500 日目指して頑張りましたよっていうことで随分頑張っていました。ついこないだですね、8 月 11 日に 1000 日達成したんですけども 1000 日ですね、で終わりました。もう交通事故死 0 そのものが、私らが目的にしているというよりも、自分の場合だと特に新入学児童で子供さんと挨拶をして、元気をもらっているっていうのが、何かこう一つの楽しみのようになってしまって、この交通安全というのは、交通事故を 0 にしようっていうのが最大の目標だと思うので、それについてのやり方は各それぞれの市町村さんがみんな知恵を絞ってされていることだと思うので。まずこういう活動にこう何とかこう仕向けてもらうようなこともこれからしていかないと、本当に枯渇してしまうかなというのが一つの悩みです。

村山先生:いや、ありがとうございます。声にしていただいて、ほんとは 40 年間私からは何も渡すことができませんが、本当に感謝します。ありがとうございます。引き続き後輩たちの指導をよろしくお願いします。40 年以上やっている人なんかもありますよね。40 年、50 年やっている人いたら本当に手を挙げてください。

●:ずっとリレーして、しゃべれなくなるまでやっていきます。

村山先生:ありがとうございます。どうですか？お願いします。

●:関係ない話ですけども、先程発表していただいた清田区さんの方ですね。この資料を見て、去年は多分「止まる、見る、聞く」っていうところの話をしていただいたと思いますけども、これはちょっと札幌市さんの方かなという話がありまして、今回アイコンタクトとハンドサインっていう 2 つが追加されています。私は交通指導員という形で、学校の方に指導にはいかないのですが、このアイコンタクトとハンドサインとですね、これが加わったことがちょっと新しいなっていうことで、これはすごく大事じゃないかなっていうことをお話聞きながら思いました。今回この内容を自分の指導委員会の方に持ち帰って、こういう項目も追加してみたらどうかっていうことも検討してみたいなということを感じました。

それともう一つ、これは先程他人事っていうお話もありましたけども、意外と他人事で考えているかもしれない。皆さんどう思っているかわかりませんが、この中で自転車の方の話をちょっと見た中で、最後の方に自転車の事故の当事者責任っていうところが 2 ページばかり出てきますけども、自転車を買いに行く時に親御さんが付いていっているはずですよ。子供だけでは買ってはいないはず。この時に自転車屋さんの方からこういう事故が起こったら大変だということをまず説明していただきたいな。要はここに書いてありますように、刑事上、民事上、道義的、行政上の責任があるっていうことを親御さんは知らない。そういう説明を聞いたこともないし、自転車を売る時にそういうこともはっきり教えて、それからこの中に書いてある自転車のライトのつけ方も教えてほしい。知らないですよ。子供がこうイベントの時に夜遅く来て、ライトつけて帰ってねって言うても子供がつけ方も分かんない、親も分かってないというところの説明もしないといけないうて。その時に合わせてヘルメットっていうことを売るっていうことではないですけども、安全のためには絶対いるっていうことを言っていたらいいなと。そういう風にこう常々考えています。転倒した時に頭を打つというところが、なんでヘルメットをかぶるのっていうところが、みんな分かってないだろうと思います。自転車が倒れて頭を打った時に、脳障害で死亡することが多いです。それを防ぐためにヘルメットをかぶりなさい。ヘルメットは一回倒れた

ら次はもうダメですよっていうところも説明をしていただきたいです。ヘルメットを一回かぶって、ゴロンと倒れて、そのヘルメットはまた使えるなという認識は違うっていうことははっきり言わないと、ヘルメットの中のあのクッションのところがひび割れしちゃうと、それはもう役に立たないっていうところまで説明をしてもらいたいなっていうことをちょっと思いました。

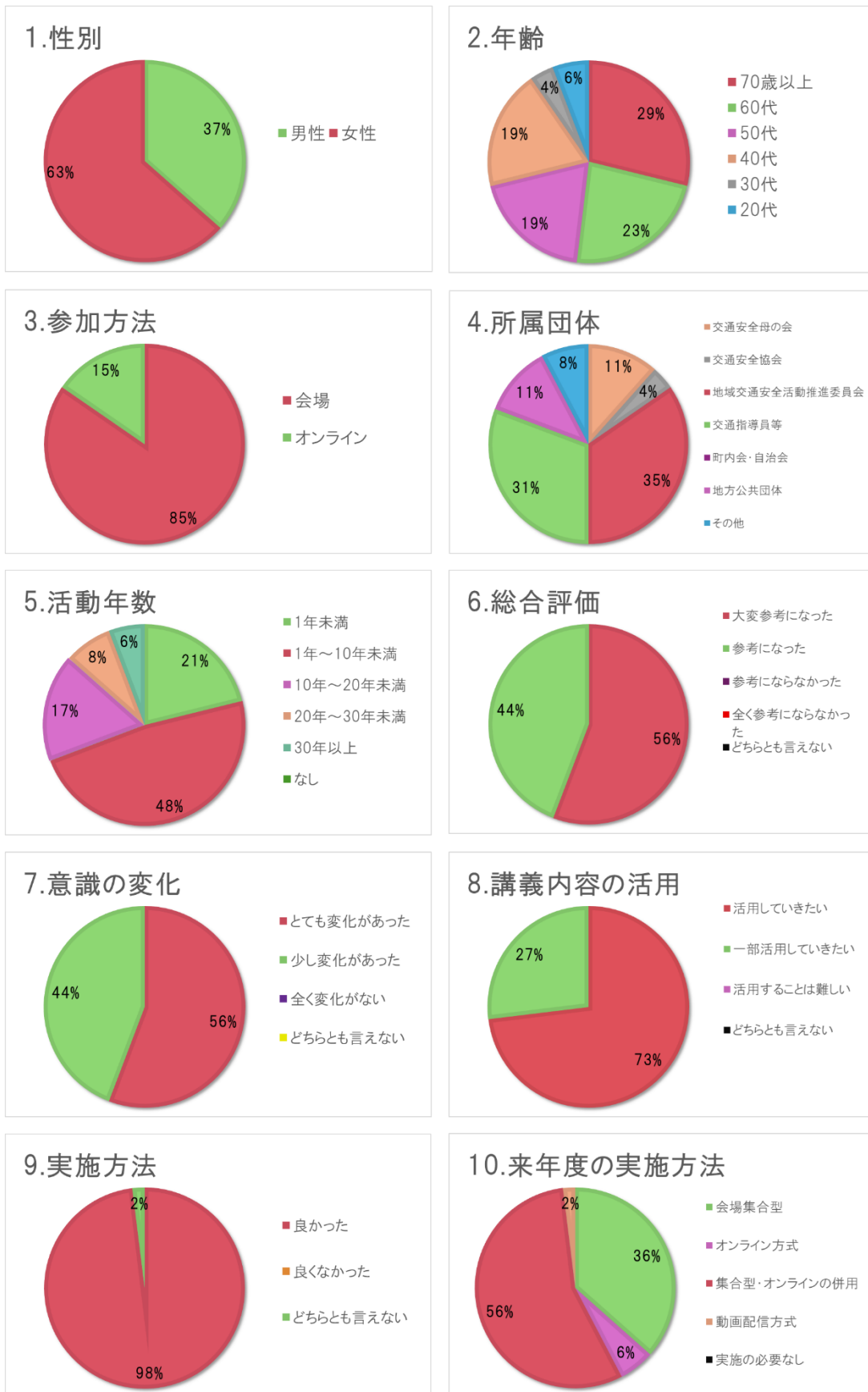
村山先生:ありがとうございます。非常に重要なことを最後にお伝えいただいてありがとうございます。その今のお話をもっと私も受け止めて、確かにそうだと思います。ぜひここにおられる皆さんと一緒に。そうですね、売る側の方も一緒に交通安全に向けて取り組むということですね。

■講評

ありがとうございます。ではお時間となりました。もうちょっと私が皆さんを奮起させられるようなことができれば、もうちょっと活発になったかもしれませんが、すみませんでした。本当に1日お疲れ様でした。これからお伝えすることが本筋になるかどうか分かりませんが、私は地域づくりのところでもいろいろお話しさせていただくことがあって、2泊3日のその地域のプログラムを作るなんてやったことがあります。2泊3日その地域のプログラムを作って、それを商品化しようってやりました。全国各地でやりましたよね。九州の人たちが2泊3日のプログラムを、北海道でやりましたよ。2泊3日のプログラム。九州の人がじゃあそれを売るとしたならば、いくら売りますかって聞いたら10万円って言いました。北海道の人たちにこうやって作ってくれた人たちに聞きました。じゃあ2泊3日のそのプログラムはいくら売りますかと。1万9800円って言われました。同じ2泊3日ですよ。我々からすると九州行っただけ、北海道行っただけどっちも楽しいですけども、この感覚は何の感覚なのかって。九州の人たちはうちらが作ったから、来てもらう所がいっぱいあるから10万円で売れると。かたや北海道の人に聞いたら、なんで1万9800円ですか？いやいや、わざわざ来ていただくので、飛行機代が高いから滞在費は下げなきゃみたいな話になりました。北海道の方々、奥ゆかしいと思いました。もしかしたら今日のこの皆さん、私あえてこういう話をしていますかね。嫌われるようなこと言っていますけども。おそらく皆さん一人一人は胸に秘めていることはあるのだと。それを今日はゴックンと飲み込んでこの時間を過ごしていたのかなと思います。ただし、もう一度言いますが、40年続けられた、50年続けられたという方はいます。おそらく想いを持っていると思います。その想いをそのまま地域の人たちと、あるいは仲間と家族と形にしていって、引き続き続けていっていただけたらなと思います。

今日の皆さんのお話、あるいは今日のこれから一緒に写真を撮らせてもらいます。来年も使わせてもらいますからね。またどこかでお会いできたらと思います。本当に今日の時間が皆様にとって手がかりとなる時間になったならば、私もここに来た甲斐があると思います。本当に1日ありがとうございました。皆さんご自身に拍手をして終わりにしたいと思います。どうもお疲れ様でした。

3.アンケート集計結果



問11.今後取り上げて欲しいテーマ、講演等について

- ・ヘルメット普及のために推進したらよいこと
- ・自転車のルール・知識が浅い方が多いように感じるので周知のためにも、またテーマとして取り上げてほしい
- ・子供たちに向けた交通ルール、自転車登下校についてテーマにしていただけたら勉強になります
- ・児童の保護者へのアプローチについて
- ・今までのテーマ、講演会の内容を知りたいと思いました。幼児・小学校に向けた講演会が知りたいです
- ・自転車の安全利用 5 原則がかわってからの実態が気になります
- ・教材の内容に取り入れたらよい。脳や体の活性化になるテーマや講演を参考にしたいと思った
- ・大変良かった
- ・交通安全教室でできる劇やその他の手立てを具体的に教えてほしい
- ・冬の交通安全教育
- ・引き続き自転車の安全性について浸透するまで何度も実施するとよい
- ・道路交通法の変更点について
- ・4 月から青切符導入して半年ほどのタイミングなので、状況や各地の情報共有があればいいと思う
- ・ボランティアが高齢化していますがそれに対する効果的な方法は何か
- ・自転車青切符等、数年間以内に改正された規則
- ・高齢者、児童等の講和時のゲーム等、受講する人に向けてもらいやすいものの講演
- ・全国各地で行われているといいますが、小学校の講演を教えてほしい
- ・道北はバイクで観光に来られる方が多いので、バイクでの交通安全について取り上げていただきたいです

問12.本講習会以外で、交通ボランティア活動に必要な知識や技術などを向上させるために必要な機会について

- ・Zoom 配信など日常で気軽に知識を得られたらと思う
- ・TV・ボランティア活動で知ったこと、広く知ってほしいので全国民に広く知らせてください
- ・またこのような講習会がありましたら参加したいです
- ・他の市町村の方々と交流して意見交換を行う
- ・知識を得るための文献紹介等があるとよい
- ・本音を語り合いたいですね
- ・オンライン形式が実施しやすいと思います
- ・各地方でのヒアリング、実情を共有、把握して講師によるフィードバックを受ける
- ・今回の自転車の安全利用についてお話を伺いましたが地域によって道路に整備状況や高齢者の人口比率等が異なると思うのでそれぞれの地域よっての安全利用を知る機会を設けられるといいです

問 13. その他ご意見・ご感想

- ・講演が分かりやすく楽しく学べました。それぞれの地域で工夫しながら啓発運動を行っていることを知り参考になりました
- ・自転車用にヘルメットの件。私のヘルメットはライトが点いて点滅します。一石二鳥です
- ・とても参考になりました。交通安全の意識がより一層高まりました。今後につなげていきたい

- ・昼食の休憩時間が短く、お店(飲食店)が混んでいたのでは待ち時間で間に合うか不安でした。ホテル・レストランの予約もありますが全員は無理ですので希望者にはお弁当の有料提供の検討をお願いします
- ・グループディスカッションがあるとたくさん聞けてありがたい
- ・活動事例発表だけではなくグループワークがあると他の市の活動も知れてうれしいです
- ・事前に要望したことを参加者から募っておくこと
- ・インターネットでの参加町村はどのくらいなのか。アンケートの取りまとめをしては
- ・交通ルールの再認識ができた講習会だった
- ・食事の時間が短い。食べに行っても混んでいて入れなかった・・・少し時間をずらすなど考慮してほしい
- ・私、高齢者になりますが大変参考になりました。今日講習会を改めて役立ていきたいと思います
- ・ヘルメット着用の意識レベル向上の大切さも意見交換で実感できたので幼少期からできる啓発活動方法のアイデアなどがあれば助かり、活動しやすくなると思いました
- ・講演1では気づきの重要性、手がかりを作るなどとても参考になった。さらに体力と認知のバランスなども大事ということで周囲に伝えていけたらと思う
- ・初めての受講でしたが、行動内容を起こすためには気づき⇒気づくためにてかかりと言う段階があるというお話は自身にも大変気づきになりました

4.写真



講演 村山先生



講演 彦坂先生



活動事例発表の様子



活動事例発表の様子



活動事例発表の様子



意見交換会

